新米坊守の

そもそものはなし No.32

こんにちは！若坊守です。キリスト教の地獄、なかなか怖かったですね…では仏教的、日本的な地獄ってどんなところなんでしょうか？「神曲」のような有名な本とかあったっけ…？

往生要集は極楽浄土へのガイドブック

千年も前の平安中期、恵心僧都源信というお坊さんが書いた本です。

死んだら人はどうなるの？という死後の世界を生々しく書き、人々に衝撃を与えました。地獄のことだけでなく、極楽へ往生する方法も教えてくれる、まさにガイドブックのようなものだったのです！

この方、親らん聖人が「七高僧」のひとりにあげるくらいすごい人なんです。

この往生要集の内容を分かりやすく伝えるために、お坊さん達が掛け軸など絵を使った「絵解き」というお説法で当時の人々に広く知られていきました。

芥川龍之介の「蜘蛛の糸」でもお馴染みの←こんなイメージ。

「極楽が上にあって地獄はその下にある」という位置関係も、そもそもは往生要集を一枚の絵で表現した構図が始まりだったんですね～。